

読書会読書グループのための
十冊文庫目録 追録 No.38

(令和四年度)

千葉県立図書館

令和五年三月現在

書名・著者	解題
<p>おいしいごはんが 食べられますように 高瀬 隼子 著</p> 	<p>料理上手で守ってあげたくなる存在の女性社員・芦川。食べることにまったく重きを置いていない男性社員・二谷。その同僚で何事も頑張ってしまう女性社員・押尾。ある日、芦川が早退のお詫びにと、職場に手作りスイーツを差し入れたところから、不穏なムードが漂い始める。「食」に対する違和感を軸に、わかり合えない人間模様を描く。 第一六七回 芥川賞 令和三年刊 一五二頁 講談社</p>
<p>嫌いなら呼ぶなよ 綿矢 りさ 著</p> 	<p>コロナ禍の日常を舞台とした4編を収録した短編集。美容整形した顔を同僚に「いじられてる」女、素人ユーチューバーへの応援が過熱していく女、妻の親友宅のパーティーで不倫を吊し上げられる男。こぞって被害意識を持ち、メールで闘い合う作家、ライター、編集者。「正しさ」の攻撃にも負けず、自身の欲望に忠実な主人公たちを描く。 令和四年刊 二〇七頁 河出書房新社</p>
<p>語学の天才まで一億光年 高野 秀行 著</p> 	<p>二五を超える言語を実際に現地で使用、『謎の独立国家ソマリランド』や『西南シルクロードは密林に消える』等の著作を刊行してきたノンフィクション作家が、語学の魅力、ユニークな学習法、語学が少しでもできるかどうかとどんなことがわかるのかを現地での体験やエピソードを交えて紹介する。 令和四年刊 三三四頁 集英社インターナショナル</p>
<p>黒牢城 米澤 穂信 著</p> 	<p>時は本能寺の変を四年後に控える天正六年。信長に叛逆し有岡城に立てこもった荒木村重は説得に訪れた織田方の軍師、黒田官兵衛をとらえて幽閉する。村重が秘密裏に打ち明ける城内での不可解な事件を土牢の囚人、官兵衛が解き明かしていく戦国ミステリ小説。 第一六六回 直木賞 第二一回 山田風太郎賞 令和三年刊 四四五頁 KADOKAWA</p>
<p>生物はなぜ死ぬのか 小林 武彦 著</p> 	<p>遺伝子の仕組みの研究者が、「生物はなぜ死ぬのか?」「死」をどのように捉えるべきなのか?という疑問に対し、「ターンオーバー」、「進化」、「多様性」等をキーワードに生物学的見地から解説。アンチエイジングの最前線や「死なないAI」との付き合い方についても触れる。 新書大賞二〇二二 第二位 令和三年刊 二二七頁 講談社</p>
<p>月夜の森の梟 小池 真理子 著</p> 	<p>「年をとったおまえを見たかった」長年連れ添った夫・藤田宜永を肺がんで亡くした著者は、病と死にどう向きあい、見送った後どのように過ごしたのか。季節は流れ、森は変化していく。その日その時の風景、気持ち、二度と巡ってこない瞬間を綴る。『朝日新聞』連載を単行本化。 令和三年刊 一七二頁 朝日新聞出版</p>

書名・著者	解題
<p>同志少女よ、敵を撃て 逢坂 冬馬 著</p> 	<p>ドイツ軍によって母親や村人たちを惨殺されたソ連の少女・セラフイマが主人公。復讐を決意したセラフイマは、似たような境遇におかれた女性だけで編成された狙撃小隊に入り、過酷な訓練を重ねる。練度を高めた小隊はやがて、スターリンググラードの前線へ…。精密な戦場の描写とともに狙撃小隊が見つめた生と死、戦争の悲惨さを描く。</p> <p>第一一回 アガサ・クリステイー賞 本屋大賞二〇二二大賞 令和三年刊 四九二頁 早川書房</p>
<p>文にあたる 牟田 都子 著</p> 	<p>人気校正者によるエッセイ集。複数の辞書を使い分け、疑いながら何度も読み、古書店や図書館を巡り原典にあたる。十行足らずの文章をチェックするのに四日もかかるときもある。それでも読者に誤りを指摘されるのを想像するだけで胃が冷たい手でぎゅっとなつてきたような感覚になる。校正の難しさと面白さ、書物に対する想いを綴る。</p> <p>令和四年刊 二五五頁 亜紀書房</p>
<p>黛家の兄弟 砂原 浩太郎 著</p> 	<p>日本海沿いにあると思しき架空の神山藩。代々筆頭家老を務める黛家の三男・新三郎は大目付の黒沢家への婿入りが決まる。ところがある日、筆頭家老の地位を狙う漆原内記の策略で黛家の将来を揺るがす大事件が起き…。そして舞台は一三年後、二転三転するお家騒動とともに、己の無力さをつきつけられた若き武士・新三郎の成長を描く。</p> <p>第三五回 山本周五郎賞 令和四年刊 四一〇頁 講談社</p>
<p>目の見えない白鳥さんと アートを见に行く 川内 有緒 著</p> 	<p>「目が見えない」と「美術館が好き」という話が頭の中でつながらないまま、何も知らずに全盲の美術愛好家・白鳥さんと絵画展を訪れた著者は、意識が転換するような体験をする。「見る」ということ、アートの意味、生きるということ。白鳥さんとアートを巡って見えてきたことを綴る。</p> <p>二〇二二年本屋大賞ノンフィクション本大賞 令和三年刊 三三五頁 集英社インターナショナル</p>
<p>やさしい猫 中島 京子 著</p> 	<p>シングルマザーのミユキさんと八歳年下のスリランカ人、クマさんは、震災ボランティアで偶然出会い、惹かれ合っていく。娘のママも『やさしい猫』という民話を教えてくれたクマさんに懐き、三人で穏やかな日々が続くはずだったのだが…。入管法に翻弄される小さな家族が、どのように立ち向かっていくかを描いた長編小説。</p> <p>第五六回 吉川英治文学賞 令和三年刊 四一〇頁 中央公論新社</p>
<p>夜に星を放つ 窪 美澄 著</p> 	<p>星座の伝説と各内容をリンクさせた五編を収録した短編集。亡くなった妹を想いながらコロナ禍を過ごすOL、母親の幽霊が見える女子中学生、新しいお母さんのことをまだ「お母さん」と呼べない小学生。人生に戸惑う者たちが、再び希望を掴むことができるのかを問う。</p> <p>第一六七回 直木賞 令和四年刊 一二〇頁 文藝春秋</p>

※十冊文庫の「書名目録」は、千葉県立図書館のホームページからご覧いただけます。
(トップページ左側「各種資料リスト」の「十冊文庫」のページに目録あり)